

全国保健師長会 栃木県支部だより

発行
全国保健師長会
栃木県支部
令和6年2月吉日
第44号

支部長あいさつ 栃木県支部長 菊地 幹(安足健康福祉センター)

日頃より全国保健師長会栃木県支部活動に、御理解・御協力をいただき感謝申し上げます。やっと通常の年末年始が戻ってきましたが、元日には「能登半島地震」が発生し、「羽田航空機事故」もあり不安な年明けとなりました。被災地からの要請に応じ、栃木県からも1月8日から「保健師等の応援派遣」が開始されたところです。少しでも平穏な年になることを祈るばかりですが、新型コロナウイルス感染症がなくなったわけではなく、インフルエンザ等の感染症も増加しています。年度末に向けて忙しい時期だと思いますが、体調に気をつけて、ワークライフバランスを大切に、力を合わせて乗り切っていきましょう。

9月に群馬県で開催されました「北関東・甲信越ブロック研修」、「当支部の第2回研修会」につきましては、多くの方に御参加いただきありがとうございました。他支部からの先進事例の報告や現任教育に関する意見交換、県内市町や保健所における災害時初動対応の報告など、参考になる内容が多く好評でした。詳細は、この後報告させていただきます。

私からは、11月18日に長野県で開催された「第45回全国保健師長会代議員総会」に参加しましたので、印象に残ったことを報告いたします。

松本会長と厚労省の五十嵐室長からは、「様々な健康危機において、保健師の活躍は目覚ましく社会貢献できていること」「お互いに労い合い、声に出していくことが必要であること」「平時からの統括保健師間の連携や、近県やブロック内の保健師ネットワークが不可欠であること」を含め挨拶があり、多くの来賓の方々から、保健師活動への様々な期待とたくさんのお言葉をいただきました。また、新たに統括保健師間のネットワークのあり方について検討する「統括保健師間のネットワーク推進特別委員会（仮称）」の設置が提案・承認され、令和6年度から活動を開始することになりました。統括保健師のサポートを含め、保健師業務の発展に繋がる取組を期待したいと思います。

総会后、「DXで保健師活動はどう変わる～今保健師が取り組むべきこと～」をテーマに、慶應義塾大学の田口教授等による基調講演と先進自治体からの実践報告があり、「DXの推進によって保健活動は大きく変わること」「保健師記録のデジタル化によって、個別支援だけでなく、集団や地区支援、事業運営、事業化や施策化の効率化も図れること」「デジタル化を活用してPDCAを回す仕組みづくり（保健師の介入効果の見える化）が必要であること」等について、研究を基に実践例を挙げながらお話いただきました。

具体的には、保健師記録の効率性・内容と質・活用や評価に関する課題に対して、①ICT活用等による効率化・良質化 ②意味あるデータの蓄積・活用によるPDCAの推進 ③標準化による人材育成の推進が図られ、その結果、質の高いサービスを提供できるようになることを理解することができました。

保健師は、日々記録に悩まされている人も多いと思います。私はPCスキルも高くなくDXの流れについていくのもやっとですが、模索しながら「まずやってみる」と取り組んで

効果を感じている自治体の話を聞き、改めて、社会の変化に対応した保健師活動の必要性を実感し、組織としてのビジョンを共有し挑戦している心意気に刺激をいただきました。

来年度の代議員総会は、11月9日に福井県で開催される予定です。総会及び基調講演等の詳細は、全国保健師長会ホームページに掲載されていますので御覧ください。

さて、今回の支部だよりでは、今年度本県で開催された「健やか親子21全国大会」や「市町のこども家庭センター設置を含めた母子保健活動」等について、県こども政策課と2市から御報告いただきます。母子保健・児童福祉は、健康な人づくり・地域づくりの基盤といっても過言ではないと思います。センター設置の準備は大変だと思いますが、保健師の強みを生かしながら関係分野の皆さんと力を合わせて、効果的な支援体制づくりができればと思います。

価値観が多様化している中、自分自身もバージョンアップしなくてはなりませんね。少しでも住民のQOL向上・幸福度アップに繋がるいい仕事をしていきましょう！
今後も、会員の皆様の御支援・御協力をよろしくお願いいたします。



令和5年度 北関東・甲信越ブロック研修会報告

- 日時：令和5(2023)年9月2日(土) ● オンライン：zoomによる配信
午後1時30分～4時 ● 対象者：北関東・甲信越ブロック支部会員等
- 開催方法：ハイブリット形式 (茨城県・栃木県・群馬県・新潟県・新潟市・山梨県・長野県)
- 会場：群馬県高崎市総合保健センター
- 参加者：151名（会場参加：58名、オンライン参加：93名）
- 内容：テーマ「保健師活動の転換期における人材育成～原点を見直そう～」



(1) 全国保健師長会活動報告 全国保健師長会会長 松本 珠美氏

(2) 保健師活動実践報告

報告1 「桐生市の妊娠期から子育て期の母子を支える切れ目ない支援」

群馬県桐生市子どもすこやか部子育て相談課 久保 明子氏

報告2 「地域包括ケア促進のための組織再編成～包括的支援体制づくりにおいて保健師に求められること～」

新潟県糸川市市民生活部福祉事務所地域包括ケア係 山岸 千奈美氏

報告3 「コロナ禍での保健師活動を振り返って、これからの保健師人材育成を考える」

長野県長野市保健所保健課 鎌田 洋子氏

(3) グループワーク

テーマ 「保健師活動の転換期における人材育成～原点を見直し、これからの考える～」

初めに松本会長から今年度の活動テーマ、変わりゆく地域の健康課題に対峙する公衆衛生看護活動の展開～「誰ひとり取り残されない」保健師活動の転換期を仲間とともに乗り越える～について説明がありました。「誰ひとり取り残されない」は、保健師自身も含むことにこだわりを持ち決定されたものだということを知り、感銘を受けました。また、3名の方からの保健師活動実践報告は、母子保健分野・地域包括ケアシステム・人材育成のためとても身近な内容でした。改めて、「見る」「つなぐ」「動かす」保健師の原点を再確認することができました。グループワークでは、他県の自治体の人材育成の状況を聞くことができ有意義な時間を過ごすことができました。

令和5年度 全国保健師長会栃木県支部第2回研修会報告

- 日時：令和5(2023)年9月23日(土) 午後1時30分～4時
- 会場：とちぎ健康の森 大会議室
- 参加者：33名
- 内容：テーマ「災害発生！！その時保健師はどうか、動けばよかったか～本音で話そう～」

(1) 講演 「栃木県における災害時保健医療福祉活動体制と保健師の役割」

講師 栃木県保健福祉部保健福祉課 課長補佐 長野泰恵氏

(2) 災害対応経験のある市町等からの報告

①宇都宮市 ②栃木市 ③安足健康福祉センター

(3) グループワーク



講師の長野課長補佐からは、栃木県における災害時保健医療福祉活動体制と保健師の役割についてお話いただきました。

大規模災害時の保健医療活動に係る体制整備に関して、栃木県における体制を御説明いただき、その際の保健医療福祉活動について具体的な活動例と災害時の保健師活動について「栃木県災害時保健師活動ガイドライン」に基づきフェーズ毎の保健師活動の例や応援派遣体制及び受援側の配慮について、さらに市町村保健師の災害保健活動能力に関する教育教材の御説明をしていただきました。

「災害がいつ起こるか分からない 誰もが経験しているわけではない」とのお話から、準備・訓練・検証をできることからやってみることの必要性を改めて認識する機会となりました。



災害対応経験のある市町等からの報告

災害対応経験のある市町と保健所から、初動対応等について御報告いただきました。資料に加えて当時の画像も踏まえ、わかりやすく御説明いただきました。

宇都宮市 齋藤 順子さんより

「宇都宮市における台風19号に伴う保健師の対応状況について」



令和元年に経験された自然災害における災害警戒本部設置からの保健師の初動体制、避難所開設に伴う準備と動員、被災地域への巡回訪問について、どのように実施されたかを具体的に御説明いただきました。

さらにフェーズ0からフェーズ2までの保健師の活動経過について保健師がどのように配置されて活動したのかを一覧表にまとめていただいたものを使用しながら御報告いただきました。



栃木市 毛塚 裕子さんより

「令和元年度東日本台風による水害時の実践活動から」

避難所における保健師の連絡・体制等について『保健師災害時対応マニュアル』を作成されていました。

マニュアルの救護班の事務分掌に基づき、令和元年の災害時における救護班活動ではどんな活動が行われたのか実際の活動内容を御説明いただきました。

また、フェーズ0から発災後1か月以上における①避難所、②在宅の要配慮者、③受援の区分毎の保健活動及び被災地健康調査の実施について御報告いただきました。

さらに救護班としての保健師活動の振り返りとして、①活動体制の整備、②人材育成の推進、③関係者・関係機関との連携、④要支援者台帳の整備等が挙げられました。



栃木県安足健康福祉センター 菊地 幹さんより

「災害時の保健所における活動～台風19号への対応を中心に～」

安足健康福祉センターでの①平時からの訓練・研修などの対応、②発災前の対応・準備、③フェーズ0からフェーズ4までの保健所としての対応及び保健師の対応、⑤管内市への支援内容（健康調査等）について、それぞれどのようなことが行われたのか項目化したものでわかりやすく御説明いただきました。

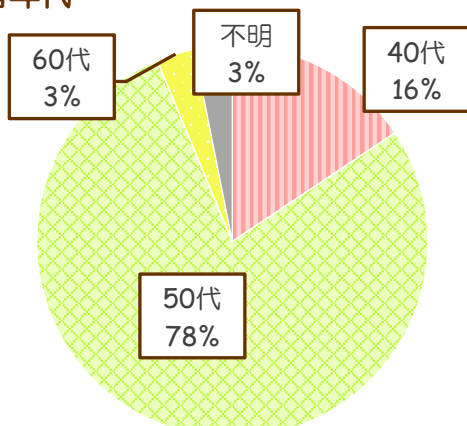
さらに、管内で発生した林野火災での活動についても御報告いただきました。

また、災害対応・保健師活動の課題として、平時からの管内市との連絡先の共有や関係機関及び管内保健師との連携強化、初動訓練を含む勉強会や研修受講による人材育成が挙げられました。

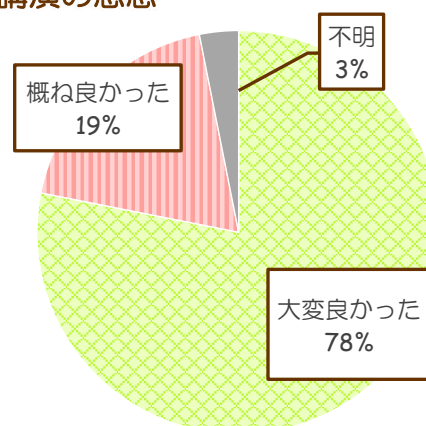


アンケート結果（回収数 32）

参加者年代



講演の感想



参加者の感想

- 県の体制を改めて確認できよかった。
- 実際の初動体制を具体的にイメージできた。
- 他市の状況を知ることができ参考になった。
- 体験談が聞いて良かった。発災時の臨場感あふれる話が聞けた。
- 実際の活動報告からの学びは大きいと思った。
- 災害時の具体的な内容、動きが聞いてよかった。今後の対応に生かしていきたい。
- 忘れかけたことを思い出し、振り返れた。市町の方と話ができてよかった。
- 統括的保健師の責任重大だが、県の統括と平時からの連携の大切さ。
- 災害時に備え、まだまだやらなければならないことがあり、それが具体的になった。
- 災害対応に関する経験値に差があり、それを補完するために、実際の経験をきけてよかった。
- 災害保健師活動は、経験を活かし、新しい情報を取り入れながら、災害時の現場での活動に生かす、ということを改めて学ぶことができた。
- 実際の取り組み内容を詳細に伺うことができて大変参考になった。
- 県や各市町の災害対応について聞かせていただき、課題になっている点など参考になった。
- 意見交換ができて有意義であった。各市町の取組がみえると今後の体制整備に役立つと思う。
- 研修等の参考にしたい。
- 平時の準備が大切と改めて感じた
- 「受援」の時に何が必要か改めて考え直したいと思った。
- 広域に発災したときは特に、まずは全体把握が必要
- マニュアル作成するにあたり大変参考になった。



令和5年度 健やか親子21 全国大会報告

本県を会場に、令和5年度「健やか親子21 全国大会(母子保健家族計画全国大会)・母子保健推進員等及び母子保健関係者全国集会」が開催されました。主催の県こども政策課と御発表された2市から御報告いただきます。

令和5年度健やか親子21 全国大会を終えて 栃木県保健福祉部こども政策課 舘脇 悦子さん



令和5年11月9、10日の両日、栃木県総合文化センターにおいて、「親子の笑顔が明るい未来をつくる！～すべての親子が笑顔でいられる社会を目指して～」をテーマに、「令和5年度健やか親子21 全国大会」を開催いたしました。

特別講演では、国立保健医療科学院の上原里程先生から、「母親を支える役割を期待される父親も支援される立場にある。父親自身の育児への参加に関する意識や、それに伴う父親の心身のケア、父親の育児参加を取り巻く環境整備の支援等についても評価をする必要がある。」等、「健やか親子21」や「成育医療等基本方針」を踏まえた父親支援のあり方について御教示いただきました。

また、シンポジウムにおいては、秋山千枝子先生をコーディネーターに、栃木市（黒臼保健師）、済生会宇都宮病院、にんしんSOSとちぎ、NPO法人とちぎみらいwithピアによるパネルディスカッションが行われ、地域の関係機関が緊密に連携し、妊婦や子育て家庭に寄り添い、支援を行うことの重要性を再確認いたしました。予防、ポピュレーションアプローチ、連携・協働など、母子保健活動における保健師の重要な役割についても考える機会となりました。

国からは、「加速化プラン」に基づき新たな母子保健施策が次々と打ち出されており、令

和6年4月からは「こども家庭センター」の設置が努力義務となります。子育て支援や母子保健をめぐる環境が大きく変化する中、本県においてもすべての妊婦や子育て家庭が安心して出産・子育てができるよう、各ライフステージに応じた切れ目ない支援体制の充実に向け取り組んで参りますので、引き続き御協力をお願いいたします。

妊娠期からの切れ目のない支援を目指して ～真岡市の取組み～

真岡市 鎌田 玲子さん



この度、健やか親子21全国大会に併設開催された「母子保健推進員等及び母子保健関係者全国集会」にて、本市での妊娠期からの切れ目のない支援を目指した取組みについて発表する機会をいただきました。

本市では、長年実施してきた妊婦全数面談に加え、子育て世代包括支援センターでのケース支援調整会議、児童福祉担当と合同で開催する子育てサポート連携会議を定例的に開催しています。

それぞれの会議では、支援方針の検討や経過の評価などを繰り返し行い、より多角的な視点でアセスメントを行い、支援の切れ目や漏れを防ぐ体制づくりに努めています。

母子保健担当と児童福祉担当が同じ課内にあるという強みを生かし、日頃から情報共有、同行訪問、ケース検討などを重ね、実体のともなった連携ができていると実感する反面、保健師のスキルアップも必須であると感じています。

現在、本市保健師の半数以上が新任期であり、人材育成が急務となっています。部内横断的な定例研修のほか、各所属で積極的なOJTに取り組み、保健師全体での能力向上に努めているところでもあります。

保健師の「見る力」「実践する力」「広げる力」は、ケース支援の基本といえます。それらのスキルと、切れ目が生じにくい体制がそろうことで、より安定した支援が行えると思います。

今後、こども家庭センターの設置・運営に向けた動きが本格化していくと思いますが、その中であっても、すべてのケースと向き合える機会を大切に、ひとりでも多くの妊婦や子ども達が安心・安全な日々を送れるよう、責任感を持って支援をしていきたいと思っております。

母子保健における保健師活動の中で日々思うこと

栃木市 黒白 友子さん



『母子保健は、すべてのこどもが健やかに成長していくうえでの健康づくりの出発点であり、次世代を担うこども達を健やかに育てるための基盤となります。』これは、健やか親子21の説明文の冒頭の一部になりますが、私は母子保健を担当する保健師は、すべての妊産婦さん、すべての生まれた子どもたち、すべての子育て家庭と一番につながる事ができる唯一の行政担当だと考えており、この言葉を目にするたびに、背筋が伸びる思いがしています。少子化や核家族化、共働き世帯の増加など社会構造の変化や家族形態の多様化など、子育てを取り巻く環境が大きく変化する中で、母子保健の役割は一層増しており、妊娠・出産から子育てまでを包括的に捉え、切れ目ない支援が提供できるよう施策の展開が求められています。

11月の健やか親子21全国大会においては貴重な経験をさせていただき、切れ目ない支援において皆様から専門性の高い取り組みと連携の実際を学ぶことができました。本市においても令和6年度のこども家庭センター創設に向けて、ポピュレーションアプローチとなる母子保健の予防視点をしっかりと捉え直し、すべての対象者が、自ら心身の健康づくりを考えられるような支援のあり方や、母子保健がもつ様々なデータを生かしながらニーズや課題を分析し、根拠のある事業展開を行うことや、関係機関・多職種との連携・協働を積極的に行い、様々な視点で支援を検討できる相談体制と専門性の高い支援、そして誰もが安心して暮らせる地域づくりを推進するために、前向きに検討していきたいと思いました。

「すべての妊婦さん自身が、自分も生まれてくる子も、大切に思えるように」「家族とともに、生まれてくる子を、大切に育てていけるように」「地域とともに、妊娠・出産・子育てを大切にしていけるように」、そして、健やか親子21の指標となっている「本市で子育てしていきたいと思う保護者の割合100%」を目指して今後も様々な取り組みを推進していきたいと思います。

お知らせ

令和6年度 栃木県支部総会及び第1回研修会について

日時：5月25日(土) 13:30～
会場：とちぎ健康の森 大会議室

みなさまのご参加を
お待ちしております

